

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227  
広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781  
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成22年4月(2010年) No.532

## 期待される今年のOMC撮影会

ーロジ確保とロケハンも完了、撮影ポイントも準備OKー

恒例の一泊撮影会は5月15日(土)、16日(日)の両日、静岡県の大井川鉄道とその沿線風景をテーマに行われますが、3月例会日現在で17名の参加希望者があり、会員諸氏の期待の高まりが感じられます。このほど関、前田の両氏が視察を行い、宿泊地の川根温泉ふれあいコテージの確認並びに撮影ポイントを見て来られました。今回は、前田氏の知人で現地にお住まいの竹島猛さんに大変お世話になられた由。竹島さんには厚く御礼申し上げます。なお、竹島さんが撮影されたビデオの一部が3月例会の第2部開始前に上映されました。参加者には参考になったことと思います。

◆撮影会作品公開コンテストは7月第3土曜17日13時30分より開催

今回の大井川鉄道とその沿線風景撮影会コンテストは上記の日時より開催しますので、その日に間に合う様に作品をつくってください。

◆OMC50周年記念映写会上映作品のプログラム編成会議は、撮影会コンテスト終了後の同日(7月17日)午後6時より開催(第4研修室)

幹事の方は予定しておいて下さい。なお、作品は原則として6月例会までの作品の中から選定しますが、申し出があれば過去の自己ベストの作品の中から出品されることも考慮いたします(50周年記念事業に限り)。

### 3月例会のレポート

桜の季節始まったというのに、今年はまだ肌寒い日が続いています。月1回の楽しい例会に今月も28名の参加者と15本の出品がありました。長編が多く2本が次月まわしになるという盛会ぶりでした。司会は吉岡さん、書記、関さん、上映係、河合、江村、増池の3氏、受付兼照明係は宮崎、進藤両氏の担当で進行いたしました。

### 4月例会のお知らせ

4月例会は24日(第4土曜日)午後6時より、難波市民学習センターにて開催。皆様のお越しをお待ちしています。作品の方もどうぞ。

**OMC第50回記念映像フェスティバルは10月17日  
(日)地下鉄淀屋橋駅前 朝日生命ホールで開催します**

◆出席者：有村、井上、岩井、上田、江村、岡本、上総、蟹江、紙本、河合、河口、黒田、合原、進藤、関、田中、錦、西村、華岡、前田、増池、宮井、宮崎、森口、森下、吉岡、山本、渡辺の28氏（敬称略）。

◆上映作品（今月の講評は関世話役です）

### 1. 武蔵坊弁慶（DV）

紙本 勝さん 17分10秒

弁慶と言えば、映画、歌舞伎、芝居、講談、小説など、さまざまなメディアに登場しますが、義経と主従の関係にあっても主役は常に弁慶です。作品はその生い立ちから義経を守って奥州で憤死するまでの広範囲の地域にわたる物語を芝居や資料などをもとに詳しく語られています。弁慶の生誕地紀伊田辺市では弁慶まつりが毎年催されていますが、そこで演じられる芝居と同時進行しながら、五條大橋で義経に出逢うまでの物語が作品前半の主な部分を占めていました。主君の義経が一の谷、屋島、壇の浦の合戦で手柄を立てて以後、検非違使という役職に就いたことから頼朝の逆鱗に触れ、都を追われて平泉に辿り着き、そこで最後を遂げるとというのが後半の内容です。誰もが知っている筋書きなので内容には触れませんが、解説に用いられている各地の史蹟などの映像はSD、ワイド、HDVと規格もさまざま。国内のほとんどを取材で歩いおられますから弁慶の一生を語るという壮大な編纂も可能なのでしょう。それにしても、どのような素材の整理をされているのか、いちどお聞きしたいですね。

### 2. 秋彩の疏水をゆく（ワイド）

森口吉正さん 9分40秒

明治のはじめ、首都が東京に移って衰退していた京都の活性化と生活用水の確保、あわせて物資運搬を目的に計画されたのが琵琶湖と京都を結ぶ運河建設、つまり琵琶湖疏水でした。映像は山をくぐってきた蹴上の疏水の流れから始まり、23才の若さで大事業のすべてを任された田辺朔郎の銅像、インクラインと舟溜り、水力発電所、水路閣、哲学の道など、それに工事中の当時の写真を重ね、分かり良いナレーションとともに見る者を充分納得させてくれま

す。題名どおり秋たけなわの構図ですが、むしろ“疏水のできるまで”に比重を置いていたような気がしました。

### 3. トルコで出逢った人たち（ワイド）

渡辺雄史さん 6分

トルコの西半分を一周するツアーに参加されたときの記録です。タイトルバックではカッパドキアの奇観、次いでコンヤのメブラーナ教会と旋回舞踏、絨毯工場、パムッカレの石灰棚、説明でエーゲ海となっていたのはチャナッカレから対岸に渡るダーダネルス海峡のことと思います。そのフェーリーに乗って子供たちとのふれあい。そしてイスタンブールで民族舞踊と色気たっぷりのベリーダンス。それを見る目が釘づけになっている男たちの表情をうまく捕らえてあり、ラストをおもしろいカットで締め括ってありました。

### 4. 岸和田のかしみん焼（HDV）

宮井 健さん 3分50秒

下町の、どこにでもあるようなお好焼き屋さん。その中にカメラを持ち込めたことは、多分作者が店の常連さんで、おかみさんとも心安かったからでしょうか。まるでテレビの料理番組のように事が運んでいきます。「かしみん」とは、鳥肉（かしわ）と油（ラード？）のミンチを合わせたもの。粉の生地を丸く薄くのばし、キャベツの千切りを山のようにのせ、その上に先出の「かしみん」をのせて、再び生地を薄くかけてコテで返します。周囲をコテで押さえて鉄板に密着させ、蒸し焼きにするのがコツだそうです。時間省略に使ったママのお孫さんのさわちゃん、可愛いですね。焼き上がったところをコテでひっくり返し、とんかつソースを塗り、削りぶしと青ねぎを振り掛けてできあがり。ここで作者が画面に登場。「おいしです」。

### 5. 長浜曳山祭（改作）（HDV）

河合源七郎さん 17分53秒

長浜の曳山まつりと聞けば子供歌舞伎。と思うのが一般の概念ですが、じつはそのまわりでさまざまな行事が厳粛に行なわれていることを、この作品を拝見して初めて知りました。偶然の出会いから作者は萬歳

楼と言うひとつの山に絞ってカメラを向けることになります。めでたい三番叟を奉納できるのは一番籤を取った山だけ。祭が始まるまえ、夜ごと町内の若衆が氏神様のまえに集まり、籤とり人を中心に一番を引くための厳しい襷が続きます。しかし四日間の精進潔斎の祈りも届かず三番山になりましたが、若衆の明るい表情に救われたようです。例年、祭りに加わるのは四基ですが、この年は長浜八幡宮の昇格を祝って90年ぶりに全十二基が境内に揃い、その光景はまことに壮観でした。お祭りが終盤を迎えた夜間、神輿とともに御旅所に御座したご神体が本殿にお帰りになる際、民衆が引き戻そうと何度もあとを追うシーンがありました。神と接する人々の信仰心の厚さを象徴する場面です。最近の作者の作品に表れる傾向は国東シリーズにも垣間見られるように、神仏に対する畏敬の念でしょうか。「人々に災いを齎らすのは神であり、それを鎮めるため神を祀ることから祭りははじまる」。吹雪や荒波にかぶせた冒頭の言葉は、大自然の脅威に曝されるちっぽけな人間が縋るものは何かを表現していると理解しました。神と人とのかかわりという極めて抽象的な現象を映像にする。いま、作者はそれを模索しておられるようです。

## 6. ザンクトヴォルフガングと

シャーフベルグ登山鉄道 (HDV)

井上勝彦さん 10分35秒

ドイツ語圏の町や人の名は、日本語的発音では舌を噛みそうで覚えにくいですね。首都や大都会はともかく、地方の長い片仮名の読みは、私なんかはたとえそこへ行った経験があってもなかなか出てきません。シャーフベルグ登山鉄道は私が乗ったことがあるスイスのロートホルン鉄道とそっくり。機関車のメカニズムの配置具合で見るとおそらく同じ製造会社のものではないかと思われます。山頂駅からの下界の眺めもロートホルンに似ていました。ただ違うのは作者は三脚できっちり確実に撮られていること。私は手持ちの乱暴な絵でした。下において小さなザンクトヴォルフガングの町を散策されています。小さいと言っても

立派な塔をもつ白亜の教会があり、映画やオペレッタの舞台となっただけあってヨーロッパの雰囲気満ちていました。ここを旅した本来の目的は、3D映像の国際連合組織IHU、その世界大会に出席のためだったとか。さすがですね。ひょっとしてこの作品も3D映像では？。

## 7. 錦秋の牛滝山 (HDV)

上田吉巳さん 5分23秒

泉州の高雄と称されるだけあってすばらしい紅葉です。朱色の大威徳寺多宝塔ともみごとにマッチしていました。この日は休日だったのか観光客もたくさん訪れていたようです。野外演奏グループの奏でる音楽がほぼ全編に流れ、BGMとしてもうまく利用されてありました。ただ後半の曲のテンポが早く、現場で聞くのはよいでしょうが、この映像のバックとしては少し合っていない感じがしました。

## 8. のぎきまいり (HDV)

前田茂夫さん 8分22秒

ネットのYouTubeでダウンロードした野崎小唄を聞いて撮影に出掛けたとか。東海林太郎の歌とその姿がパソコン画面に映し出されます。収録が1971年。テロップに昭和47年10月4日没、享年76歳と出ていましたから、なんと亡くなる一年前、75才まで歌っていたんですね。のぎきまいりは慈眼寺(通称のぎき観音)の重要な縁日のひとつで毎年5月1日から10日間も開かれるそうです。唄の中で優雅に屋形船を浮かべた野崎川はゴミや壊れた自転車が投げ込まれてドブ川状態。JR野崎駅周辺は住宅地に変貌し、観音さんまでの参道はぎっしりと露雨が軒をならべ賑わっており、“どこを向いても菜の花盛り”の風情はもう見当りません。それでもこの期間ずっと野崎小唄が流れ、名利ぶりをアピールしているそうです。紫綬褒章など数々の受賞歴をもち当時の歌謡界の第一人者が歌うご当地ソングですから地元が利用しないわけがありません。その威力に今更ながら驚きました。と感想を述べる作者です。

9. 近江商人考 その3 豊郷の商人たち  
(HDV) 進藤信男さん 18分50秒

当番幹事の機材の故障で進藤さんの作品評がありません。4月度に掲載しますのでご了承ください。

10. 御坊臨港線 (HDV)

江村一郎さん 7分10秒

JR御坊から西御坊まで、わずか2キロ半あまりを運行する紀州鉄道の最古参車両キハ603を、沿線のひなびた風景とともに作者独特のカメラアイで捉えています。盛んなころは日高川河口の木材集積場まで走っていたのでしょうか。しかしいまは松原通りを過ぎた楢川の上で、そこだけ切断されたように途絶え、その先は赤錆びた線路と雑草の繁る空き地が延びるだけで、どこか虚しさが漂っていました。が、笑いもありました。猫が線路の上をとことこ歩いている。踏み切りの遮断機が下りるとその向うからキハ603がやってくる。振動を感じた猫が慌てて走りだす。もうひとつは、運転手が乗ってくる。プシュッとドアを閉める音がしたが閉まらない。運転手が半身をのりだしてドアの把手を押す。

そろりそろりとドアが動く。半分も閉まらないうちに発車。30秒経ってもまだ閉まり終わらない。作者も根負けしてそれ以上撮るのはやめた。表したいところだけをねらい、無駄と感じたものは入り込ませない鋭い切り口の構図は、駅や車両、町の様子までも直感的につかみとり、作者の心の中の世界が描かれていました。余部シリーズにも優れた作品がありましたが、これはまさに作者自身の心象風景だと思います。

11. 梅の花の咲く頃に (HDV)

宮崎紀代子さん 6分51秒

つくしのアップから始まります。題名や女性歌手の名は知りませんが、絵とマッチした楽曲選びは作者のセンスの良さを感じました。以前も見たことのある龍雲寺の「般若はん」。今回は教典が運ばれてくるころから撮られています。作者がお住まいの近くにはまだ畑も多く、ご自身もミニ農園で野菜を育てておられます。とくに苺の実

がなるのが楽しみとか。年中無休の農家のおばあちゃんは88才の笑顔がとつてもすばらしかった。つつい暖かさに誘われ近所をぶらりでこれほどの作品を作るとはすごいですね。

12. ロドス島 (HDV)

山本正夢さん 5分50秒

トルコ西部の沖合に浮かぶ島々はほとんどがギリシャ領です。そのなかでもロードス島は最大級、しかもトルコ本土とは目と鼻のさき。そのため昔から島の支配をめぐる戦争が絶えませんでした。世界七不思議のひとつ、ロードスの巨像はそんな外敵に対する威嚇が目的で造られたのではないのでしょうか。紀元前の伝説でいまはその跡形も見ることにはできません。首都は島の最北端ロードス。ヨハネ騎士団の城塞都市は世界遺産になっています。作者が撮られたのもそこでの映像がほとんどでした。序盤、グーグルアースによるロードスの位置がアンタルヤの沖に円が書かれていますが実際はもっと西のダルマン沖です。

13. カプリ島 青の洞窟観光 (HDV)

蟹江利一さん 8分

大手の旅行会社のほとんどがツアーを組むほど有名な観光地。しかし、洞窟の入り口が低く狭いのです。こし波が高いともう入れなくなります。ツアーに参加しても実際に見ることができる確立は50%とか。それだけ希少な価値があるわけですが、作者が行かれたときは好天で波も穏やかだったそうです。ラッキーでした。ただ観光客が殺到すると小舟に乗ったままの時間待ちが長引き、乗り物酔いのひどい人は耐えられないでしょう。そして洞窟に入れたのは良いが、中は小舟でいっぱい。ボートの隙間越しに青く光る海がちらほら見える程度でした。旅行社のパンフレットには神秘的な写真で紹介されていますが実物は大違いでした。洞窟の観光が済んで岸壁に戻ったその場所には、これから洞窟に向かう人々が列を成していました。世界3大がっかりと言うのがありますが、あれはみんな彫像。洞窟の3大がっかりもつくらないといけませんね。